

運 動 方 針

組織広報委員長 弘田 兼一

■「常在戦場」、統一地方選挙、来る国政選挙必勝体制の県連づくりへ

本年は、8市町村長選挙、14の市町村議会議員選挙が行われる。支援候補の苦戦が、国政選挙の勝利での党内の驕りや緩みだとすれば厳に戒めなければならない。野党時代に、あきらめず各種党組織・広報活動にひたむきに汗をかいたことを忘れず、今後も誠実で、謙虚で、正直な自民党という原点に立ち戻り、常在戦場、各級選挙全ての戦いに勝ち抜く体制づくりに本年も努めていく。

■「120万党员獲得運動・300小選挙区×4,000人」

1月19日の自民党大会にて、これまでもない党员拡大策「300小選挙区すべてに4,000名の党员を確保する」ことを目標とした「党员獲得運動推進要綱」が示され、強力に展開することが決定した。

これは、平成27年末を期限とし、国会議員・選挙区支部長は1,000名を目標数とし、地域・職域支部らと連携して小選挙区4,000名党员を達成し、党活動の基本である「わが党の考えに強く賛同する仲間」を増やしていくこと、党勢拡大を趣旨としている。

達成者にはインセンティブ（党役員人事、比例代表名簿の登載順位決定での考慮判断材料とする）を与える一方、未達成者は一定の責任（不足数に2,000円を乗じた金額を県連に納めるなど）を課するとしている。

衆参国会議員が旗振り役となり、県議会議員をはじめ、各級議員、支部長らと連携し、各支部での具体的で地域の特性にあった党员獲得計画を策定し、300小選挙区4,000名の党员目標の実現に努めていく。

■「集いの場・学びの場・きっかけの場づくり」

われわれ自由民主党の強みは、旧市町村単位の地域や職域に張り巡らされた支部の存在である。

支部総会の開催を活発化させていく。本年は全ての地域支部で、全黨員が集まる総会を開催し、「地域のつながり」を大切に、老若男女が集い、地域の黨員が交流できる場づくりに努めていく。

本年も、歯科医師連盟とのデンタルミーティングをはじめ、職域支部や各種友好団体との意見交換会等を政調会で中心に開催していく。

女性が、若者が政治を変えてきた。本年も、各級選挙での原動力となる女性局、青年部、青年局の各種研修会の開催、支援に力を入れ、KOCHI自民党政経塾を通じて、次代を担う有為な人材の発掘・育成に励む。

■「発信力ある広報活動」

各級選挙、各種国民行事において青年部・局による街頭宣伝活動を昨年以上に実施していく。

もはやインターネットは、若年層だけの交流ツールではない。昨年リニューアルした県連ホームページ、「フェイスブック」「ツイッター」などのSNSの有効・最適活用すべく、改善に努め、街宣活動、党機関紙「自由民主」などの紙媒体とあわせ、多面的にメディアを展開し、黨員間の情報の共有を図り、県連の諸活動、わが党の政策などを県民各層へ伝播することに努めていきたい。

我々は常に謙虚で丁寧な政治姿勢を忘れてはならない。多くの敗戦は保守分裂選挙がその一因でもある。新しい衆院小選挙区への対応、いかなる環境下でも勝てる体制固めが必至である。本年行われる各級選挙で勝利し、来年の統一地方選挙、来るべき国政選挙に向けた必勝体制を築きあげる一年としようではありませんか。